

# 自費研フェスティバル2019 イベントレポート

2019.8.9-10@五反田TOCメッセ

昨年好評を博した自費研フェスが2daysにパワーアップして帰ってきた!  
医科・歯科を横断し「自費診療」に特化したコンテンツを  
フェスのように楽しめる2日間。  
他のどの学会とも違うユニークなイベントの様子をお伝えします!



一年ごとに  
倍増するスケール

2019年の厳しい酷暑を象徴するかのよう、今年の自費研フェスも熱かった。出展企業数は100社を超え、2日間の参加者数は医科855名・歯科468名・企業785名の合計2,108名となり、大盛況だった昨年をさらに上回る賑わいとなった。

核となるセミナー数は、昨年から倍増して35本。内容は、「最新の治療法や治療薬のレポート」はもちろんのこと、「クリニックの経営や管理」「法的対応」「自費診療の上手な取り入れ方」など、医療関係者のリアルな興味や悩みに迫るテーマがラインナップ。各分野で革新的な取り組みをされている医師や歯科医師、企業社長など、魅力的なスピーカーたちが4つの会場に次々と登壇した。なかでも、初日に行われた富岡拓海氏やフー株式会社と中村茜氏(ヤフー株式会社)による「Yahoo! JAPANの医療広告」や「ヤフーが初めて語る医療広告の裏側」にて、2日目に「一般社団法人 予防医療普及協会の理事を務めるホリエモンこと、堀江貴文氏」と同協会顧問 鈴木英雄先生との「予防医療

のミライ」と題した対談は、多くの注目が集まり、会場前に長蛇の列ができた。

食べて飲んで、  
活気溢れる雰囲気

セミナーゾーンの向かいのホールには、たくさんの方の企業ブースとともに、歓談したり一息ついたりするのにぴったりなフード&ドリンクコーナーや休憩コーナーが配置されている。今年は1日目の夕方にアルコールタイムを導入。テキーラ協会より200杯の無料テキーラが振舞われ、お祭り気分が高まった。

休憩コーナーは有効的に使われていて、ローストビーフ丼やステーキ丼など、お好みの食事をとりながら仲の良い先生同士で情報交換する姿や、楽しそうにかき氷を頬張る看護師グループ、コーヒー片手に会場のマップやタイムスケジュールを眺める一般企業の方々などさまざま。思い思いの過ごし方でくつろいでいた。

ときどき子供の姿が見られたのが今年の特徴かもしれない。昨年はなかったキッズルームが併設され、お子様の預かりサービスも行われていたのだ。キッズルームは盛況で、2日間ともフル稼働していた。

お盆休みの始まりに開催されたこともあって、自費研フェスに遊びに来ている家族

もいたのだろう。パパやママが勉強している間、子供たちは自費研フェスで夏を満喫する……なんて過ごし方もアリかもしれない。

医師のホンネ  
「なぜいま自費研」か

医科、歯科問わず「自費診療」をテーマにする自費研フェス。参加者のモチベーションはさまざまである。

ある歯科医師のグループは、知り合いの先生のSNSで自費研フェスを知り、興味を持ったそう。「まとまっている企業ブースが魅力。セミナーで聞いて興味を持った治療法や治療薬があれば、企業ブースですぐに詳細が分かるし、購入することができる」と他の学会と自費研フェスの違いを表現した。「公演の内容が実践的だすぐに治療に取り入れやすい」と特徴だという。歯科以外の商品をまとめることができることを楽しんでいました。

「美容系ばかりかなと思いきや、病氣治療にも使えるような治療薬、サービスを発見することができました」と話すのは消化器内科の医師。開業するのをきっかけに自費診療を取り入れることを検討しており、自費研フェスにやってきたという。

「へム鉄の鉄剤が出せないなど、もともと保険診療の限界を感じていました。開業し